

第6回全日本教育系学生バドミントン選手権大会について

競技役員長 足川 萌 (日本女子体育大学)

今年度の全日本教育系学生バドミントン選手権大会は日本女子体育大学が担当させていただきました。教育系が始まる2ヶ月ほど前から数名が当番校の中の中心としてやらせていただいておりますが、申し込み書類の確認・申込書や要項を各大学に送付したりと、他にもいろいろ大変なことがありましたが無事、教育系を終えることができよかったです。また部として学連以外の方がこのようなことを経験できたことはとても貴重だったと思います。また、当番校である日本女子体育大学を始め、東京女子体育大学・筑波大学の方のサポートや大人の役員の方々の協力などがあり終えることができました。

今年は去年より参加大学や参加人数が増え活気づいた試合となりました。12月24日、教育系初日、体育館に入ると指示なしに周りが動いてくれたおかげで準備が早く終わり試合開始の状態までもっていくことができました。幸い初日の棄権は少なく試合の進みも速くとてもスムーズかつ順調に進んでいました。ところが、3回戦くらいになると急にコピー機が動かなくなり、試合を入られるどころか印刷ができなくなってしまった為に試合を一時中断することもやむを得なくなりました。電源を切ってもインクを変えても印刷はできず、たまたまあった白紙の審判用紙をコピーしてきて替えのコピー機が届くまで手書きで繋ぐこととなりました。コピー機は届いたものの初日の試合は手書きでまわすことができましたが次の日のことを考え翌日の1回戦までを印刷し準備して終えました。

12月25日最終日、初日と比べかなり棄権が多く練習をまわしながら繰り上げられたスコアー用紙などを印刷したりで朝からバタバタでした。なんとか試合を始めることができましたが、試合種目が女子シングルスだったこともあり、審判や運営、試合などが重なったために私たちの大学だけでは回らず、東京女子体育大学の方の助けを借りながら試合進行などを行いました。手伝っていただいたおかげで試合進行もスムーズに行きました。最後の閉会式や表彰などでアクシデントがあったりと最後までバタバタでしたが、なんとか終えることができました。

期日：平成28年12月24日(土)～25日(日)

会場：葛飾区総合スポーツセンター体育館

男子シングルス

優勝 馬場 湧生 (筑波大学)
準優勝 下川 大樹 (筑波大学)
3位 進藤 翔平 (帝京大学)
〃 松本 康平 (早稲田大学)

男子ダブルス

優勝 馬場 湧生・牧野 桂大 (筑波大学)
準優勝 下川 大樹・西野 勝志 (筑波大学)
3位 北村 拓未・新井 海風 (帝京大学)
〃 齋藤 洋平・春成 星哉 (筑波大学)

女子シングルス

優勝 飯村梨衣子 (東京女子体育大学)
準優勝 高原美由樹 (明治大学)
3位 川原 優 (慶應義塾大学)
〃 高原 佳穂 (東京女子体育大学)

女子ダブルス

優勝 柏原 みき・加藤 美幸 (筑波大学)
準優勝 細川 栞・柿本 由乃 (東京女子体育大学)
3位 中西 貴英・片桐 悠夏 (早稲田大学)
〃 三谷 奈央・松田 美架 (早稲田大学)



【役員・幹事校】

第6回全日本教育系学生バドミントン選手権大会：優勝者のことば

男子シングルス 馬場 湧生（筑波大学）



男子シングルス、ダブルスと共に優勝することができました。去年はシングルスだけの優勝でしたが、今年両種目で優勝できたことには、技術面や体力面もそうですが、精神面でも一歩前進できたことによると思います。本大会の結果で一喜一憂することなく、チームとしても、個人としても、インカレ優勝を必ず達成するという覚悟をもって、日々の練習に取り組みます。

男子ダブルス 馬場 湧生・牧野 桂大（筑波大学）



優勝を目指していたので、目標を達成でき嬉しいです。苦しい場面で引かずにパートナーと協力して攻めて行けたことが良かったと思います。来年はシングルスでも優勝できるように日々精進します。

女子シングルス 飯村 梨衣子（東京女子体育大学）



女子シングルスで優勝することができました。今年度最後の大会で良い結果を残すことができ嬉しです。また、来年の自信にもつながると思います。この結果で決して満足せず、個人としては東日本やインカレで結果を残し、チームとしては一部に昇格しインカレに出場できるよう、日々の練習を全力で取り組み、さらに上を目指していきます。

女子ダブルス 柏原 みき・加藤 美幸（筑波大学）



この度、全日本教育系バドミントン選手権大会で女子ダブルスにおいて3度目の優勝を果たすことができ、とても嬉しく思います。今年度最後を締めくくることが本大会だったので、パートナーの加藤としっかりコミュニケーションを取りながらダブルスの総括を試みました。また、新たな課題を見つけることができました。その課題を克服するためにも、今後様々なことにチャレンジしていきたいと思います。来年は、今年達成できなかった目標に向けて日々精進して参りますので、今後ともご声援のほどよろしくお願い致します。最後になりましたが、本大会開催にあたりご尽力いただいた日本教職員バドミントン連盟ならびに東京都バドミントン連盟の皆様、そして当番校であった日本女子体育大学バドミントン部の皆様に感謝申し上げます。（柏原 みき）

優勝という結果を大変嬉しく思います。今大会ではリードされる場面はありましたが冷静に対応でき全試合ストレートで勝てた部分に成長を感じました。しかし、連続失点の多さなど課題はまだまだ見受けられるので、今後の成長の糧にしたいと思います。（加藤 美幸）